

旭川市における ユネスコ創造都市ネットワークの取り組み

日本ユネスコ国内委員会委員(科学小委員会)

あさひかわ創造都市連絡協議会副会長

旭川ユネスコ協会会長

林朋子

本日の報告

- I. 旭川ユネスコ協会の紹介
- II. ユネスコ創造都市ネットワーク加盟の経緯
- III. 創造都市の理念・Vision・Mission
- IV. ユネスコ創造都市としての取り組み
- V. ユネスコ創造都市ネットワークと教育機関
- VI. ユネスコ創造都市ネットワークと旭川ユネスコ協会
- VII. まとめ

I. 旭川ユネスコ協会

- 1972年設立
- 日本ユネスコ協会連盟の構成団体
- 独自の3大継続事業
- 旭川市教育委員会
社会教育部文化振興課と
連携・情報共有

外国青年日本語主張発表会 & 小中学生ユネスコ作文コンクール(1991~)



ユネスコの森 ミズナラ植樹事業 (2000~)



Ⅱ. 旭川市のユネスコ創造都市ネットワーク加盟の経緯

1. 家具のまち旭川から、デザイン都市旭川へ

1976年	旭川デザインシンポジウム開催
1987年・88年	国際デザインフォーラム旭川開催
1990年	国際家具デザインフェア旭川(IFDA)3年に1度開催
2015年	旭川デザインウィーク 毎年開催
2017年	国際インテリアアーキテクト／デザイナー団体連合(IFI)と「IFIインテリア宣言」(国内3番目の宣言承認都市)
2019年3月	あさひかわ創造都市推進協議会設立
2019年10月31日	ユネスコ創造都市ネットワーク加盟認定

2.あさひかわ創造都市推進協議会 設立

- ・2019年3月設立
- ・事務局 旭川市経済部産業振興課
- ・旭川市の経済界が主体となって運営
(家具工業協同組合、デザイン協会、
機械金属工業振興会、食品加工協議会、
金融機関)
- ・ユネスコ創造都市ネットワーク加盟認定を
目指して設立

⇒旭川ユネスコ協会会長 役員に就任
地域ユネスコ協会との連携開始！

あさひかわ創造都市推進協議会 役員

任期：2021年5月～2023年定期総会

役職	氏名	団体・企業名(役職)
顧問	西川 将人	旭川市
顧問	新谷 龍一郎	旭川商工会議所
顧問	増澤 喜久雄	あさひかわ商工会
会長	渡辺 直行	前旭川家具工業協働組合 代表
副会長	佐々木 通彦	旭川機械金属工業振興会
副会長	米谷 慈洋	旭川食品加工協議会
副会長	伊藤 友一	旭川デザイン協議会
副会長	林 朋子	旭川ユネスコ協会
副会長	椎名 澄子	旭川大学短期大学部
監事	大谷 薫	旭川デザイン協議会
監事	杉本 啓維	旭川家具工業共同組合

3 .ユネスコ創造都市ネットワーク加盟へ 2019年



- ・デザインをまちの活力や経済活性化につなげてゆく取組みの一環として加盟
- ・デザインの先進地としての実力が世界に認められたことを示す
- ・ネットワークを最大限に活用して、市の経済発展につなげたい

⇒加盟認定後

- ・デザイナーにはきわめて好感をもって受け止められ、デザインプロデューサー育成事業などに、多くの参加者があり、デザインへの理解が広がってきている
- ・デザインへの注目度が上がり、セミナー・起業など、多岐にわたる前向きな取組みの機会が生まれ、多くの団体がイベントに参加しようとしており、市民のまとまりが出てきた。

Ⅲ. 創造都市の理念・VISION・MISSION

1 .あさひかわ創造都市の理念

デザインの森

自然・人・文化で育む「デザインの森」を創出する

アイデアの種が時を経て、幸せの木々として生い茂る美しい森の誕生。
デザインが持つ大きな力で、この地域だからこそできるひとづくり、
まちづくり、ものづくりを実現する。



2 .創造都市としてのVision と Mission

VISION

実現したい未来像

北の大地の「自然」や「人」が持つ大きな力を
デザインで育み、美しく幸せな未来を創る

MISSION

果たすべき使命

1. デザインを活かした創造都市旭川の普及啓発活動

- ① デザインの力で市民ひとりひとりのあったらいいねの実現
- ② デザインを合言葉にしたコミュニティの創出
- ③ アートとデザインに触れあえる機会の創出
- ④ 街の未来を創造しデザイン手法により文化を育む土壌づくり

2. ユネスコ創造都市ネットワークの一員としての活動

- ① 創造都市との人的ネットワークづくり
- ② 文化の創出、文化多様性への理解の促進
- ③ 全世界のサステイナブルな未来に向けた取り組み
- ④ 時代の要請に応えるESD(持続可能な開発のための教育)の推進

3. 北の森と共に生きる創造都市の実現に向けた活動

- ① デザイン思考による地域活性化の推進
- ② 豊かな地域を活かしたサステイナブルな社会の実現
- ③ クリエイティブ人材の育成や活躍の機会の創出
- ④ サステイナブルを意識した暮らし方や居心地の良い風土の実現

IV. ユネスコ創造都市としての取組み

1. セミナー等の開催（企業・市民がデザインを学ぶ、触れる、つくる）

・巡回特許庁を2回開催
(R1旭川、R2道北)

・「デザイン経営」により、
ブランド力とイノベーション力を向上

⇒企業競争力の向上

・旭川デザインプロ
デューサー育成事業

⇒プロデュースの実践研修
で、事業全体をプロデュース

特許庁 × デザイン × 旭川

見方を変えて、知財を味方に。

知財のミカタ

巡回特許庁



特別無料オンラインセミナー
第1回 3/22 (月) 18:30 - 20:30
第2回 3/29 (月) 18:30 - 20:30

参加定員 40人
登録受付 2021.2.25 - ※上限に達し次第締め切り
登録先 <http://designhub.hokkaido.go.jp/>

デザインでシフトする 旭川の森から始まる ビジネスの可能性

デザイン プロダクト・コミュニケーション 体験・発想・経営・感性 ビジョン・共創・テクノロジー	×	森 木材・バイオマス・産物 水質・地下水質・固生する環境 持続性・生態系・景観資産 公園・教室・レジャー	＝	都市の未来 循環型産業・オフグリッド・教育 コミュニティ・ものづくり 実践実験・グリーンインフラ 地産地消・美容・健康 ワークショップ
---	---	---	---	---

Design × Management Seminar
デザイン×経営セミナー

小山薫堂と考える 幸せのデザインとは

と き: 2021年3月17日(水) 開場 18:00 開演 18:30
と ころ: 旭川市民文化会館大ホール(旭川市7条通9丁目 旭川市役所隣り)

2.旭川デザインウィーク開催 2021年6月・9月分散開催

旭川家具産地展
(1955~)



旭川デザインウィーク
(2015~)

ファクトリーツアー
市民向けの体験イベント



ASAHIKAWA
DESIGN
WEEK 2021



IFDA
INTERNATIONAL FURNITURE DESIGN COMPETITION
ASAHIKAWA 2021

(1990~)

3年に一度、国際家具デザインコンペティション旭川



オンライン審査風景

家具と木工の祭典として開催されてきた「旭川デザインウィーク」を、「ユネスコ創造都市」の業種・分野を越えた多彩なイベントとして、官民一体となって開催

旭川デザインウィーク2021実行委員会組織図

実行委員長
あさひかわ創造都市推進協議会
会長 渡辺直行

旭川ユネスコ協会は
実行委員・参加団体として
企画・運営に参画

ユネスコスクールや
NPOに参加を呼び掛け、
「**まちなかキャンパス**」で
連携・協力



旭川デザインウィーク2021 スケジュール

6月16日（水）

6月17日（木）

6月18日（金）

6月19日（土）

6月20日（日）

IFDA基調講演

ADW基調講演、分科会

パネルディスカッション

ワークショップ

多種多様な業種・機関・市民が参加した展示会，販売会

多種多様な業種のオープンファクトリー（工場開放）

多種多様な業種・機関・市民が企画したイベント

主な来場者

デザイナー，バイヤー

地域住民

3. 市民広報により、旭川市民に広くPR

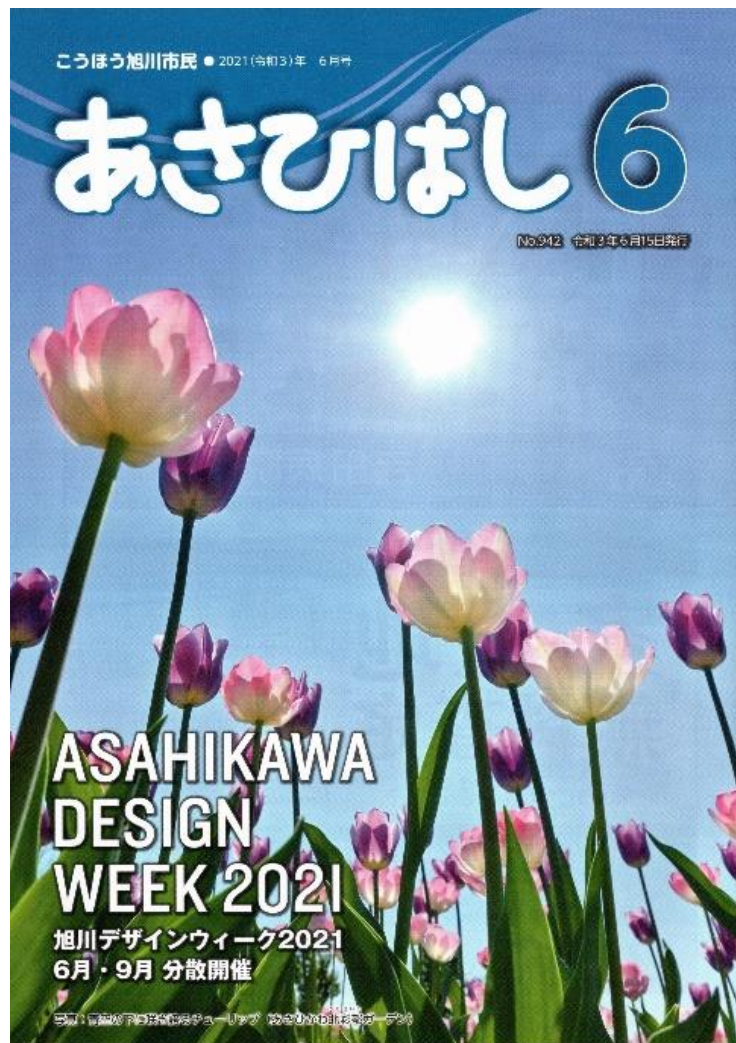
市民広報「あさひばし」

- ・年12回
- ・A4判、32ページ
- ・フルカラー
- ・全戸配布
(16万3千300戸)

旭川デザインウィーク

2021のガイドブックは
WEB配信

紙媒体によるレポートは
9月(後半)開催後に発行



ASAHIKAWA DESIGN WEEK 2021

みんな、デザイン。
みんなの、デザイン。

旭川デザインウィーク2021
6月・9月 分散開催

旭川家具産地景から始まり、家具・木工の祭典として定着してきた「旭川デザインウィーク（ADW）」。新型コロナウイルスの影響で2年ぶりとなる今年は、感染対策を行い、6月は主にオンライン配信、9月には市民参加型のイベントを開催します。市が2019年に「ユネスコ創造都市ネットワーク（デザイン分野）」に加盟認定を受け、「デザイン都市」として歩み始めてから初めてのADW。活動の輪を家具以外にも広げ、業種や分野を超えて多彩に展開します。実は生活に身近な「デザイン」。その楽しさと奥深さを感じてみませんか？

【詳細】産業振興課65・7047

デザインと共に歩む 「幸せな未来」

旭川デザインウィーク2021実行委員会
会長 遠辺直行さん

これまでのデザインウィークは、旭川家具・木工のイベントが中心でしたが、旭川がデザイン都市になったこともあり、デザインという切り口で多くの市民や関係機関と一緒に、「幸せな未来」を考える機会にしたいと思います。

私は、「便利＝幸せ」とは限らないと思っています。私たちの暮らしは物質的には豊かになりましたが、その一方で、五感が弱まっていないでしょうか？ 複雑を極める社会には、理屈ではなく美意識や直感、検理観でしか解決できない課題も増えています。デザインは「感じる力」を高め、新しい考え方で多くの人が幸せになるための方法論です。

期間中、日本を代表するクリエイターによる講演会や討論会を行います。教育や経営など、幅を広げて様々な分野における未来を、デザインという視点で考えていきます。大切なのは子供や多くの市民に、デザインの力を知ってもらうことです。理屈っぽく考えず楽しみ、「デザインって面白そう」と興味を持ってもらえたらうれしいです。



4.旭川デザインウィーク実行委員会主催 「まちなかキャンパス」オンライン開催(9/18-19)

・現在の旭川市内の高校では、SDGsを学び、
社会参加の意識を高めることに役立っている。

(例) 旭川藤星高校では、フィリピンの学生ボランティアと
オンラインで意見交換し、「貧困をなくそう」を
テーマに、「フェアトレード」について学んでいる。

・SDGsの成果発表をYouTubeにてライブ配信
市内の小中学生は自宅から参加予定。

・18団体、9校、**ユネスコ創造都市ネットワー
ク加盟3都市**（シンガポール、リトアニア、バン
ドン）がライブ配信予定。

SDGs 通じバイオトイレや貧困、教育格差



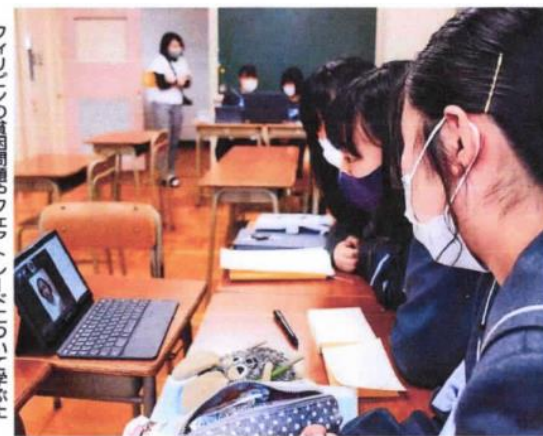
5月中旬、旭川北高の2、3年生の有志13人が放課後「マチナカキャンパス」で集まり、アフリカにバイオトイレを設置する計画について議論していた。17あ金集めなど計画の詳細をまとめたSDGsの目標の一つ「安全な水とトイレを世界

「安全な水とトイレを世界

(山中いずみ)

高校生、世界の課題を探究

小中生に9月発表 社会参加の意識も向上



フィリピンの貧困問題やフェアトレードについて学んだ小中学生は、現地でのボランティアと交流する藤星高の生徒たち

利用でき、悪臭もない。バイオトイレの活用方法を考える中で、インフラ整備が進まず、下痢が子どもに死因上位を占めるアフリカで普及すれば、SDGsの目標達成につながるという。今春から2、3年生

の有志を募り、さらに探究を深めることにした。3年の石田英乃さん(17)は「地元企業の技術を役立てることでアフリカのトイレ問題が自分事として考えやすくなった」と話す。社会科の教員を目指す3年の工藤綾真さん(17)も「身近なことが世界につながるということを伝えられる教師になりたい」と語る。旭川藤星高は、2016年から毎年、希望者を募り、

フィリピンを訪れて貧困や教育格差の現状を学ぶ視察旅行を実施している。昨年と今年はコロナ下で現地視察は見送ったものの、今年5月10、11日には現地で活動する日本の非政府組織(NGO)の協力で、フィリピンと同校をオンラインでつなぎ現地の学生ボランティアと英語で意見交換した。SDGsの目標の一つである「貧困をなくそう」をテーマに、途上国の産品を適正な価格で取引する「フェアトレード」について学んだ。

5・旭川龍谷高校（市内唯一のユネスコスクール）との連携

主な活動

- ① 郷土研究を通じた北海道文化の考察
- ② ボランティア活動を通じた地域社会への貢献
- ③ 海外見学旅行を通じた国際理解教育の推進(旅行中止)

「首里城復興」募金活動を実し、
旭川ユネスコ協会を通じて寄付



旭川デザインウィーク市民イベント「マチナカキャンパス」で、
アイヌ文化紹介とタイのMuangkrabi Schoolとの交流を
紹介予定



タイ Muang Krabi School ホームページより



V. ユネスコ創造都市ネットワークと教育機関

- ①ユネスコスクールである旭川龍谷高校、SDGsに取り組む市内の高校や専門学校の活動を支援

(例) ACCUマッチングへの協力
成果発表の場の提供
報道機関への呼び掛け など

- ②「まちなかキャンパス」や他の体験イベントを通して、小中学生にSDGsやデザインの切り口での学びの提供

- ③旭川大学の公立化、「地域創造デザイン学部」新設の推進

- ④北海道イノベーティブデザイン経営研究協議会 (HIDERA, ユネスコ部が「まちなかキャンパス」モデルをつくる)などの新たな教育関係NPOの創出

【旭川大学】 地域創造デザイン学部



【北海道イノベーティブデザイン経営研究協議会】
ものづくりデザイン研究部会、ユネスコ研究部会



VI.ユネスコ創造都市ネットワークと旭川ユネスコ協会

ユネスコの理念の理解促進に向けて連携・協力

- ・あさひかわ創造都市推進協議会による「あさひかわ創造都市理念」作成に協力

①イメージ図②Missionでユネスコを明示

- ・旭川デザインウィーク2021ガイドブックにて、推進協議会長と対談
ユネスコの理念を語る

- ・イベントの企画・運営に参加・協力
「まちなかキャンパス」の運営、
ユネスコスクール、他NGOへの協力依頼など



まとめ

- 旭川市がユネスコ創造都市ネットワークに加盟認証された
 - デザインを切り口に、高等教育、社会教育に広がりが生まれてきた。
 - 「旭川デザインウィーク」は、創造都市理念のMISSIONの実践の場となっている。
 - ユネスコの理念の普及は、行政、企業、教育関係、NPOなど様々な立場からの繰り返しの発信により進んでいる。



- ユネスコの目指す多様性に富む持続可能な社会づくりのためには、行政、企業、学校関係者にユネスコの理念が広く理解される必要がある。
- 市民や相対する創造都市との協力関係の推進には、協議会による情報の統合・共が有用だが、旭川市のような地方中核都市の場合は、ボトムアップ型の「身近な人による啓発」が効果的である。我が国のユネスコ創造都市ネットワークにおいては、今後、地域ユネスコ協会の積極的な関与を期待する。
- コロナ禍にあり、誰もが人と人のつながりを実感しにくくなっている。このような時にこそ、次世代育成を常に心におき、誰も取り残さない社会づくりが必要である。



手に手を取って、心の中に平和の砦を築きましょう